

能楽堂とは
能を上演する専用の舞台を能舞台といい、四本の柱に囲まれた三間（約6m）四方の本舞台を中心として、右側に地謡座、正面奥に後座と松の描かれた鏡板をもち、左側に長さ四間ほどの橋掛りを備えた独特な形をしています。

この能舞台は元々屋外にあり、野天の白州や対面する建物が客席になっていましたが、明治以降、屋根付きの舞台と付随する楽屋、客席ごと建物に収容され、能楽堂と呼ばれるようになりました。

昔ながらの屋外舞台も全国に数十カ所現存しています。

【チケット料金】(税込) 全席指定

◆ S席・・・8,800円 ◆ B席・・・5,500円
◆ A席・・・6,600円 ◆ C席・・・4,400円

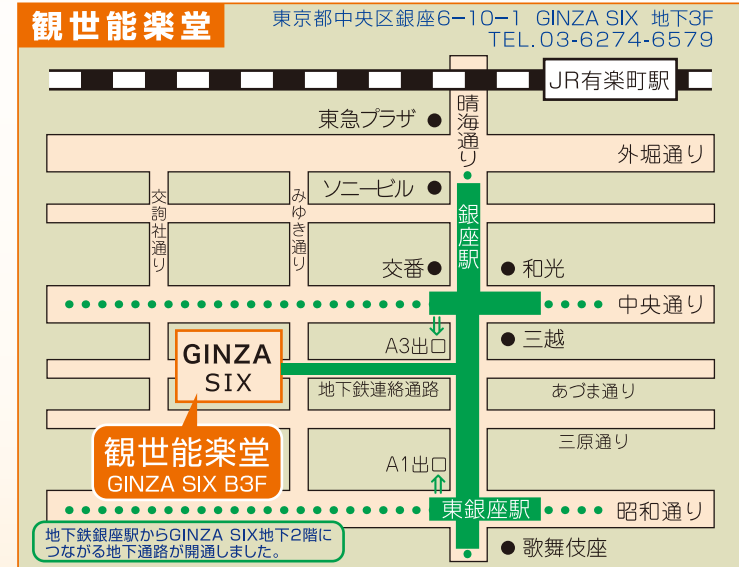
【チケット取り扱い】5月9日(金) 午前10時より

◆ 電話 (有人対応 休業日を除く10時~15時)
チケットスペース▶03-3234-9999

◆ インターネット
e+イープラス▶<https://eplus.jp/> (PC・携帯共通)
*販売は上記に限り承ります。

《学生割引》2,000円・キャッシュバック
当日会場にて、26歳以下の学生の方々に2,000円をキャッシュバック致します。

- ◆ 当日、上記が確認できる証明書等をご持参下さい。受付は、会場入口付近となります。
- ◆ キャッシュバックは、チケットをご購入の上、当日会場に来られた方に限ります。
- ◆ 証明書等をお持ちにならなかった方へは、キャッシュバックは致しません。



【お願い】

- * 上演中の撮影、録音、録画は固くお断り致します。
- * 上演中はアラーム及び携帯電話の電源をお切り下さい。
- * 本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。
- * 出演者はやむを得ぬ事情により変更させて頂く場合がございます。
- * 舞台進行が常と異なる場合があります。
- * 開場前のご来館につきましては能楽堂館外にてお待ち頂きます。

◆ 公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承下さい。
公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 / <https://www.nohgaku.or.jp/>

公益社団法人能楽協会普及公演(東京)

第四十七回 納涼能

能 金剛流「現在七面」
金剛 龍謹

能 観世流「水無月被」
観世 喜正

ユネスコによる「人類の無形文化遺産」能楽

令和7年7月18日(金)
開場/午後1時 開演/午後2時
会場 観世能楽堂
主催/公益社団法人能楽協会 東京支部



ごあいさつ

納涼能は本年度第四十七回を迎えました。
これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。
シテ方五流総出演はもとより、能楽師によるミニ講座等、当支部ならではの企画となっております。
観世流は能「水無月被」を、金剛流は能「現在七面」を、大藏流は狂言「乗隈神明」等、今回も各流儀に伝わる稀曲を選曲致しました。
お暑い時期ではございますが、能楽に親しむ良い機会かと存じます。
万障お繰り合わせの上、ご来場賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

東京支部長 朝倉 俊樹

番組組

ミニ講座 角 幸二郎

〈開演 午後二時〉

能(観世流)

シテ(狂女) 観世 喜止

水無月祓

ワキ(都の男) 宝生 常三

大鼓 亀井 洋佑
小鼓 田邊 恭資

笛 槻宅 聡

アイ(上京辺の老) 野村万之丞

後見 坂 真太郎
武田 尚浩

地謡

武田 宗典 長谷川晴彦
松山 隆之 浅見 重好
永島 充 岡 久広
浅見 慈一 藤波 重彦

能 水無月祓 みなづきばらえ
都の男は、播磨国室の津で馴染んだ女を妻に招こうと迎えを出しますが、既に女は行方知れずとなっていました。男が夏越の祓の日に、賀茂明神で女との再会を祈っている、茅の輪を付けた麻の枝を手にした若い女が現れ、夏越の祓の謂れを語り、茅の輪をくぐるよう勧めます。続いて男が面白く舞つてみせるようにと烏帽子を勧めると、女は舞い狂ううち、御手洗川に映る我が身の浅ましさを恥じて泣き崩れます。すると男はこの女こそかつて夫婦の契り、この女こそかつて夫の契り、これを交わした相手だと気づき、これも室・賀茂両明神のお陰だと喜んで、夫婦揃つて帰るのでした。「班女」などと同趣の物狂能で、現行では観世流にのみ伝承されています。上演は稀ですが、季節感に富んだ作品です。

休憩 二十分

〈三時三十五分頃〉

狂言(大蔵流)

栗隈神明

シテ(松の太郎) 山本東次郎

アド(妻) 山本 則秀
アド(参詣人) 山本 則孝
アド(〃) 山本 則重
アド(〃) 山本凜太郎
アド(〃) 山本修三郎
アド(〃) 加藤 元

後見 若松 隆

大鼓 大倉栄太郎 大鼓 澤田 晃良
小鼓 鳥山 直也 笛 熊本俊太郎

仕舞(宝生流)

松 尾 宝生 和英

地謡

水上 優
大友 順
小倉健太郎
和久庄太郎

仕舞(金春流)

源 太夫 金春 憲和

地謡

山井 綱雄
高橋 忍
辻井 八郎
本田 芳樹

仕舞(喜多流)

飛鳥川 友枝 昭世

地謡

友枝 真也
金子敬一郎
香川 靖嗣
内田 成信

休憩 十分

〈四時四十分頃〉

能(金剛流)

後シテ(龍女)
前シテ(里女)

現在七面

金剛 龍謹

ワキ(日蓮上人) 野口 能弘
ワキツレ(従者) 舘田 善博
ワキツレ(〃) 則久 英志
アイ(能力) 飯田 豪

大鼓 柿原 弘和 大鼓 大川 典良
小鼓 幸 信吾 笛 藤田 貴寛

後見 廣田 幸稔
豊嶋 幸洋

地謡

見越 英明 坂本立津朗
元吉 正巳 豊嶋 晃嗣
宇高 徳成 種田 道一
田村 修 宇高 竜成

附 祝言

〈終了予定 六時〉

仕舞 飛鳥川 あすかがわ
母と行き別れた幼な子の友若のために旅人は相伴つて吉野へ詣で、再会を祈願します。その帰途、飛鳥川のほとりに着くと田植歌を謡い早苗をとる農婦の人達に出会います。よく見ると友若はその中の一人が母であることに気づきます。かくして母と子は再会をよろこびあいました。
この仕舞では初夏の田園風物に古歌をちりばめ、さわやかな趣きをあらわしています。

能 現在七面 げんざいしちめん

日蓮上人が身延山で法華経修行をしていると、毎日一人の女が現れ、機縁を謝するので、上人が法華経を説く女人成仏の謂れを語ります。女は、自分は七面の池に年を経た蛇身だと明かし、風はげしく雷雨しきりとなるや姿を消します。
なおも上人が法華経を誦してやると、老蛇が姿を現して慚愧懺悔をするので、経巻をとり上げ、要文を高らかに唱えると、たちまち蛇身は竜女姿に変じ、やがて神楽を奏で衆生済度を約諾するのでした。幽霊物の「七面」という曲があり、それに対する「現在七面」ということになりました。むしろ本曲の方が古いと考えられます。

〈終了予定 六時〉